

THE A MUSEUM

Vol.1-3 第3号 2007.2.28

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

もうすぐオープン！ゆめ・体験ひろば



もっと楽しく！
より身近に！

ゆめ・体験ひろば鳥瞰イメージ図



平成19年4月1日（日）

埼玉県立歴史と民俗の博物館に

「ゆめ・体験ひろば」がオープンします。

「自由自在座」・「ものづくり工房」・「昭和の原っぱ」

3つの体験エリアで

埼玉の歴史と文化を体感してください。

目次

- 体験学習新時代！「ゆめ・体験ひろば」オープン・・・2
～楽しさいろいろ、バラエティーに富んだ3つの体験エリア～
- 関東地区博物館協会共同企画展・・・4
「祈りの風景－埼玉の絵馬－」
- 博物館の中の小さな美術館・・・6
常設展示室4 美術展示室－常に変化する展示室－
- ますます熱い！博物館ボランティア・・・7
- 「友の会」誕生！・・・7
博物館の理解者として、サポーターとして
- 博物館情報・・・8



埼玉県のマスコット「コバトン」



体験学習新時代!「ゆめ・体験ひろば」オープン



～楽しさいろいろ、バラエティーに富んだ3つの体験エリア～

歴史と民俗の博物館では昨年度の常設展改装に引き続き、再編整備事業の第2弾として郷土学習室を改装し、新たに「ゆめ・体験ひろば」をオープンします。

「ゆめ・体験ひろば」は、それぞれ特色ある機能と設備を持つ3つのエリアで構成されるもので、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、少子高齢化社会に対応して提供する新しい体験学習ゾーンです。

ここではそれぞれのエリアのコンセプトや提供する体験アイテムを順次ご紹介します。



自由自在座イメージ1

第1エリア 自由自在座

参加体験型事業の充実や調べ学習といったニーズに対応すべく、情報機器類の老朽化が進行した「QアンドAスペース」を一新し、入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し自在に楽しむ体験型展示室「自由自在座」にリニューアルします。

自由自在座に設置するハンズオンアイテムは、「平家物語」の記述をヒントに、弓を引く力でその人の武蔵武士の能力を測定する「武蔵武士度測定器」、重い石を持ち上げる伝統的な成年式をシーソー形式で体験する「力石シーソー」、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシーン」などなどユニークなラインアップとなっています。

また「衣服の歴史ファッションショー」のブースでは、縄文時代から明治時代までの時代衣装を自由に着装することで、お好みの時代の人物に変身できます。

さらに従来の図書コーナーを拡充し、調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧いただける「学び文庫」も新設しています。



自由自在座イメージ2



第2エリア ものづくり工房

郷土に伝わる伝統文化のわざところを、ものづくり体験を通して学んでいただくエリアが「ものづくり工房」です。このため火や水を使った多目的な製作体験が可能な機能・設備を備えており、中央には藍染め体験用に3つの藍瓶も常設されています。

ここでは藍染めや組紐、^{くみひも} 鑄物や紙すきといった、^{あいがめ}



ものづくり工房イメージ1

埼玉県に伝承される伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを常時2～3種類用意、お客さまは当日のメニューから希望するコースのバウチャー券を自動発券機で購入して体験いただきます。料金は100円～250円、完成までの所要時間は概ね60分～90分くらいを予定しています。

こうしたルーチンメニューとは別に、^{うちわ} 団扇や^{ふく} 福熊手、^{くまで} 押し絵羽子板といった季節物や、^{おえはごいた} 藍染め暖簾や^{れん} 組紐帯留、^{おびどめ} 美術鋳物など成人対象の本格的なオプションメニューも適宜実施する予定です。また、学校団体等でご利用いただく場合は事前に希望日時とメニューをご予約いただくこともできます。



ものづくり工房イメージ2



第3エリア 昭和の原っぱ

既存の屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などをディスプレイすることにより、昭和30～40年代の雰囲気を再現した施設が「昭和の原っぱ」です。

このエリアではベーゴマやメンコ、ビー玉にフラフープといった懐かしの遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じてチンドン屋、飴細工、紙芝居の実演、縁日、盆踊り、^{きもだめ} 肝試しといったノスタルジックイベントも随時開催する予定です。

人それぞれによって懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、ベーゴマ名人やメンコの達人など、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通して世代間交流していただける空間です。

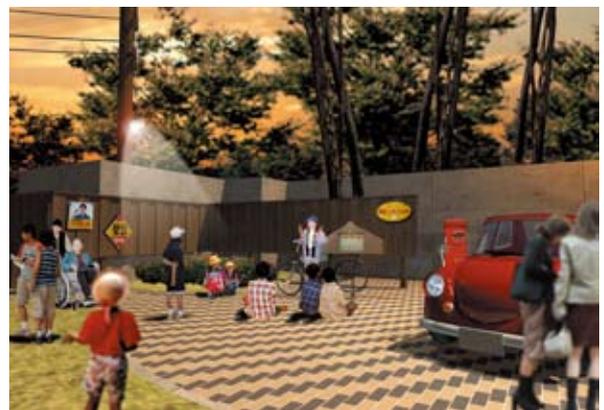
以上3つのエリアの特色をご紹介しました。それぞれのエリアは、館職員のみならず、日常的に業務をサポートする体験ボランティア、専門分野の指導を担う博物館クルー、後方支援をいただく博物館友の会会員など、県民各層の参画・協働によって運営されます。

「ゆめ・体験ひろば」は、体験内容によっては一部材料代がかかるものがありますが、各エリアとも入場無料スペースとなっています。

また施設・設備は基本的にユニバーサルデザイン仕様になっていますので、運営スタッフのサポートのもと、どなたでも安全に楽しくお過ごしいただけます。

お子さまからご高齢の方まで幅広い県民の方々にご利用、ご活用いただくことにより、県民文化の継承・交流・創造の場となることを目指し、皆さまのご来館をスタッフ一同こころよりお待ちしております。新しい魅力ある施設「ゆめ・体験ひろば」が加わりパワーアップした歴史と民俗の博物館に是非お出かけ下さい。

(学習支援担当 二階堂 実)



昭和の原っぱイメージ1・2

祈りの風景—埼玉の絵馬—

会期：平成19年3月17日（土）～5月6日（日）

関東地区博物館協会は昭和38年9月の設立以来、関東地区の博物館事業の振興を図ってきたところ です。

今回の共同企画展は「祈りの風景」を共通テーマにして加盟館が協力し、関東全域にわたる風土と文化への理解の醸成と、学習活動を支援することを目的として、県域を越えて開催します。

展示では、絵馬の歴史、東松山上岡観音の絵馬市と県内各地の小絵馬を紹介します。

絵馬への祈り

神社や寺院に参拝したおりに、絵を描き込んだ大小さまざまな板額が奉納されているのを目にします。この板額には馬の絵が多く、絵馬とよばれています。絵馬は神仏への祈願のために、あるいは祈願が成就した感謝の気持ちを込めて奉納されたものです。馬は古来より神霊の乗り物と考えられ、神社に馬を献上する習俗があります。



上岡観音の絵馬（戸森金太夫画）

絵馬の起こりは、生きた馬を献上する代わりに馬の絵を奉納したことに始まるといわれています。ただし、馬以外の動物や人物、風物などを描いて奉納する場合も多く、絵馬という名が定着する以前から、人々はさまざまな願いを込めた板絵を神仏に奉納していたとも考えられます。

絵馬は一般に大絵馬と小絵馬に分けられます。

大絵馬は神仏を讃えたり、事業を記念して奉納されることが多いようです。小絵馬は心の平安や病気快復などの願いを個人的に神仏に祈願した内容が多く、そこには庶民の心の機微が深く感じられます。

絵馬の歴史

絵馬はいつ頃から描かれるようになったのでしょうか。絵馬の言葉が初めて文献に現れるのは『本朝文粹』ほんちょうもんずい（藤原明衡編）ふじわらのあきひらです。寛弘9（1012）年6月25日に大江匡房が北野天神社に献上した目録に色紙絵馬三匹と記されています。この色紙絵馬は、馬を描いた紙絵馬と思われます。

最古級の実物絵馬としては、静岡県伊場遺跡の八世紀後半の奈良時代の地層から木簡や土器と共に発見された絵馬があります。

また、昭和32年から35年にかけて奈良県の当麻寺たいまでらの曼荼羅堂の解体修理の際に発見された板絵馬は、桧の薄板に墨で曳き馬ひの図が描かれています。絵馬に紀年銘はありませんが、同時に発見された遺物から鎌倉時代後期の絵馬と推測できます。

昭和39年に奈良県の秋篠寺あきしのでらの調査で発見された曳き馬絵馬には、室町時代中期の年号「長禄□卯月」（1457～1459年）が記されており、これは紀年銘を記した最古の絵馬です。

東松山上岡観音の絵馬市

社寺の縁日に神仏の御利益を願って、参拝者が絵馬を求める風は広く見受けられます。

東松山市の妙安寺みょうあんじにある馬頭観音では例年2月19日に絵馬市が立ちます。

妙安寺は天平年間（729～748年）に瑞慶和尚が開山しました。武州上岡観音は馬の守り本尊として関東一円の農耕馬や運送馬を飼う人々に信仰され、縁日には絵馬屋と共に馬具や農具を商う店も構え、近郷からの飾り馬を曳いた参拝者で賑



上岡観音の大祭（平成 19 年 2 月 19 日）



妙安寺から観音堂へ向かう祭礼行列

わいました。観音堂に納められた大絵馬からは、馬車鉄道、酪農家、運送業者、獣医、蹄鉄鍛冶、乗馬会をはじめ、養蚕家、料亭、左官など、幅広い層の信仰を集めていたことが伺えます。近年は、耕運機や運送自動車が発達して飼育馬も減ったため馬を連れた参拝風景はなくなりましたが、篤農家や運送・競馬関係者が馬の病魔除けや交通安全、勝利祈願に訪れています。



上岡観音の神馬銅像



上岡観音の絵馬市

小絵馬にたくした願い

小絵馬には馬以外の動植物、神仏も描かれています。絵馬師は庶民の願い事に合わせた絵柄の小絵馬を用意して、神仏への橋渡し役を努めてきました。

小絵馬を絵解きすると庶民のささやかな願いが見えてきます。

（展示担当 山田 実）



天神（学業・書道上達）
小槻正信画

記念講演会

「絵馬への祈り」（講師：大久根茂氏）

日時：4月15日（日）13：30～15：00

会場：当館講堂

申込：3月16日（金）から電話受付、先着150人
費用：無料

同時開催

スポット展「日本の伝統 盆器の美」

盆栽に欠かせないうつわ「盆器」に焦点をあて、盆栽芸術の一端を紹介します。

会場：当館季節展示室

会期：3月17日（土）～5月6日（日）

主催：大宮盆栽組合・歴史と民俗の博物館

協力：高木伝統園芸文化振興財団

記念講演会

「盆栽の歴史と盆栽村」（講師：山田登美男氏）

日時：4月21日（土）13：30～15：00

会場：当館講堂

申込：3月21日（水）から電話受付、先着150人
費用：無料

博物館の中の小さな美術館

常設展示室4 美術展示室～常に変化する展示室～

埼玉県立博物館から埼玉県立歴史と民俗の博物館になった昨年4月、民俗展示室とともに新設されたのが常設展示室4の美術展示室です。

この部屋は、第3展示室武蔵武士に隣接する「浄土に祈る」(通称仏像の部屋)でした。照明を控えた落ち着いた雰囲気はそのままに、美術工芸品全般を紹介する展示室に生まれかわりました。

美術展示室をつくるにあたり、不可欠であったのは屏風も展示できるケースです。一双(組)の屏風を展示するには、最低でも7尺以上の幅をもつケースが必要になります。画面全体を眺めるためには十分に後ろに下がる空間も確保しなければなりません。従来の展示室(江戸を支えるII)のケースの前は通路状で、ゆったりご覧いただくことができず悩みの種でもありました。美術展示室では何とか必要なケースの幅と空間を確保することができました。屏風だけでなく大きな円空仏なども展示でき、迫力を実感していただけるようになりました。

さて、日本の古い美術工芸品は脆弱であることが多く、長期間の展示は控えなくてはならないという事情もあり、約3ヶ月ごとにテーマを変えて展示構成をしています。さらに個々の資料は性質や保存状態により、約2週間から3週間で展示替えをしています。今年度は4月の開館から1月末までに陶磁器、浮世絵、円空仏、近世絵画など延べ265点を展示しました。その大半はこれまでも常設展示の中で展示して来たものなので

すが、「違って見える」あるいは「こんなものもあったんですね」という感想をいただくことがあります。展示する空間や照明などによって、雰囲気や印象が変わるためです。実は新設したケースは高透過のミュージアムガラスを使い、反射の少ない特殊なフィルムを貼り込んでいるため、実際に見え方も違うのかもしれませんが。展示中の重要文化財・三十六歌仙額(川越市仙波東照宮蔵、3月11日まで)も衣裳の細かな文様までよく見え、極彩色の魅力を堪能することができます。

お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、この部屋ではキャプションを縦書きで作成しています。時代順に埼玉県の歴史を紹介している他の展示室と趣を変えるためです。また、絵に添えられた文字を書き起こし、時には口語訳を付けたり、画題や技法を紹介するなど、なるべく小さな情報を添えるようにしています。難解だと思われがちな美術工芸品ですが、ちょっと足を止めて鑑賞していただくきっかけになれば幸いです。

常設展示でありながら常に変化している美術展示室。時に「〇〇が見たかったのに展示されてなかった」という苦情がある一方、最近では展示替えを楽しみに何度も足を運んで下さる方もいらっしゃるようです。「〇〇が展示されてなかったのは残念だけど、□□も面白かったね」という感想をお持ちいただけるよう工夫を重ねて参りたいと思います。

(展示担当 西口由子)



中・近世陶磁器の展示風景



近世絵画の展示風景

ますます熱い！博物館ボランティア

博物館では、現在40名の体験学習ボランティアと25名の展示解説ボランティアが活動しています。通常の運営からイベントのサポートまで、今では博物館にはなくてはならない存在となっています。そして、入館者の方々と最も近く接しているのが、このボランティアです。

体験学習ボランティアは、これまで郷土学習室での火おこしや井戸くみ、着付体験、まが玉づくりなどの指導を中心に活動し、多くの方々に親しまれてきました。いよいよ、4月からは新装開店する「ゆめ・体験ひろば」での活動がメインとなります。ただいまオープンにむけて特訓中。藍染めや江戸組紐、時代衣装の着付けなどのプログラムを入館者の方々に楽しんでもらえるよう、厳しい研修を重ねているところです。

展示解説ボランティアは、常設展示室に常駐し、展示ガイドを行っています。毎日定期的に行うガイドツアーや、団体見学者への解説だけでなく、個人の方の御要望にもお応えしています。旧石器時代から現代、民俗まで、わかりやすく深みのある解説ができるよう、日々研鑽を積んでいます。

4月からは、学生ボランティアも発足し、新たな仲間も迎えて、ますます熱くなることでしょう！ご期待ください。

(学習支援担当 岡本健一)



4月に向けて
研修中！

展示解説は毎日
やっています。



「友の会」誕生！

～博物館の理解者として、サポーターとして～

当館は旧博物館と旧民俗文化センターが統合し、平成18年4月に県立歴史と民俗の博物館として再スタートしました。

これを機に友の会も発足し、活動を開始。会のモットーは、「スクラム組んで、博物館を支える力に！！」です。宮川進会長のこの名言に象徴されるように、友の会の活動は博物館の職員が主導的に関わるのではなく、会長と理事から成る事務局を中心に自主的に運営されています。その活動内容は、大きく分けて二つあるといえるでしょう。

ひとつは、会独自の自主的活動です。具体的には、①会員及び一般向け講演会の実施②会員限定イベントの実施③会報「JUNO」の発行（月1回）などがあげられます。各種事業終了後には必ずアンケート調査などを行い、今後開催するイベントの参考としています。

次に、博物館のサポート的活動があげられます。昨夏開催した「ミュージアムグッズフェア」や年始の臨時開館では、館サイドがセレクトした様々なグッズを、友の会で販売するという方式を採用しました。幸いにもマスコミで取り上げられたこともあり、友の会の増収と館のイメージアップにつながった一石二鳥の共同イベントとなりました。

このように友の会は、ある時はよき理解者として、またある時はサポーターとして、当館を支えてくださっています。現在会員数は208名（法人1）ですが、会員数のさらなる増加を目標に、土・日・祝日にはエントランスロビーで入会受付を行っています。会の活動に興味を持たれた方は、ぜひ友の会にご入会ください！

(企画担当 加藤かな子)



ミュージアム
グッズフェア
会場風景

THE A MUSEUM

歴史と民俗の博物館イベント情報（4月～6月の予定）

企画展「祈りの風景ー埼玉の絵馬ー」及びスポット展「日本の伝統 盆器の美」の会期は、5月6日（日）までです。
青字のイベントは事前申込不要です。**赤字**のイベントは実施日の1か月前から電話(048-645-8171)で申込を受付ます。
 都合により一部日程が変更になる場合もあります。詳しいことはお問い合わせください。

4月	1日(日)	「ゆめ・体験ひろば」オープニングイベント	5月	13日(日)	ネットトーク	
	2日(月)	臨時開館		16日(水)	学芸員仕事公開	
	7日(土)	博物館裏方探検隊		19日(土)	博物館裏方探検隊	
	8日(日)	ネットトーク		20日(日)	ネットトーク	
5月	14日(土)	土曜子どもネット 企画展展示解説・博物館裏方探検隊	6月	23日(水)・24日(木)	藍の型染め暖簾作り	
	15日(日)	企画展講演会・ネットトーク		26日(土)	土曜子どもネット・博物館裏方探検隊	
	18日(水)	学芸員仕事公開		2日(土)	博物館裏方探検隊	
	21日(土)	スポット展講演会・博物館裏方探検隊		8日(金)	木目込み人形作り	
5月	28日(土)	土曜子どもネット 企画展展示解説・博物館裏方探検隊	6月	9日(土)	土曜子どもネット・博物館裏方探検隊	
	29日(日)～5月6日(日)	昭和の日制定記念「ショーアップ昭和」		10日(日)	ネットトーク	
	5日(土)	一日館長・博物館裏方探検隊		12日(火)～17日(日)	臨時休館	
	12日(土)	土曜子どもネット・博物館裏方探検隊		20日(水)	学芸員仕事公開	
					23日(土)	土曜子どもネット・博物館裏方探検隊
					24日(日)	民俗芸能公演「竹間沢車人形の世界」
					30日(土)	博物館裏方探検隊

さいたまスーパーアリーナで開催された「全国産業教育フェア※」に県立博物館施設、げんきプラザ、さいたま文学館が参加しました。
 小さな博物館横丁を形成して、流れてくるお客様に新生博物館の概要を説明したり、チラシを配布したりしました。

いささか手前みそですが、人気を呼んだのは当館のグーグルアースを使ったパソコンコーナーでした。有名な史跡や世界遺産を空から探す企画です。たくさんの高校生がパソコンの前に座り、空から母校や自宅の位置を確かめたり、さきたま古墳群やピラミッドを発見したりで、空中散歩に興じました。ちなみに3日間の会期中、約2,000人の皆様にご来場いただきました。（企画・民俗文化担当）

※第16回全国産業教育フェア埼玉大会は、専門高校や総合科高校等の生徒たちによる学習成果発表の祭典で、平成18年11月10日（金）から12日（日）まで、さいたまスーパーアリーナを会場に開催されました。



交通機関
 東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分
 JR宇都宮線・土呂駅下車徒歩18分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館（編集発行）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
 TEL. 048-641-0890（管理）
 048-645-8171（学芸）
 FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
 Vol.1-3（通巻）第3号
 2007年2月28日発行